

平成30年6月12日現在

機関番号：34427

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2015～2017

課題番号：15K01901

研究課題名(和文)「ビルマ系日本人」は誕生するのか 家族のつながりとアイデンティティのあり方

研究課題名(英文) The Birth of the Burmese-Japanese Citizen? Examining Family Ties and Identity

研究代表者

梶村 美紀 (KAJIMURA, Miki)

大阪経済法科大学・国際学部・准教授

研究者番号：00534421

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,600,000円

研究成果の概要(和文)：本研究は日本に長期滞在するビルマ(現ミャンマー連邦共和国)出身者のアイデンティティのあり方に着目し、「ビルマ系日本人」誕生の可能性とその意義を明らかにすることを目的としている。アイデンティティのあり方については、先行研究で多用されている国籍やパスポート等の明文化されているモノを主軸にするのではなく、当事者が国籍やパスポートをいかに運用、操作しているのかという個人の選択に着目した。定説であった1988年民主化要求デモを契機とした越境に加え、1960年代以降の越境過程、移住先での共同体形成の特徴を考察し、その間のアイデンティティ変容から「ビルマ系日本人」誕生の萌芽が見出せることが明らかになった。

研究成果の概要(英文)：This study aims to clarify the birth of Burmese-Japanese Citizen and its significance by examining the process through which people with such an identity has emerged among Burmese residing in Japan for a long term. In examining their identity, we, the research members, paid attention to the question of how those Burmese-Japanese Citizen have actually utilized their Nationality and/or Passport in forming their identity rather than merely accepting the established idea of how the Nationality and/or Passport have had a nominal effect on forming their identity. Unlike other studies that deal mostly with the refugees who crossed Burmese borders since the 1988 democratic uprising in Burma, we included in our study even those who crossed their Burmese borders as early as in the 1960s, and who eventually established their community after settlement in Japan. Finally, the study concludes by delineating the process through which how Burmese-Japanese Citizen have being emerged in today's Japan.

研究分野：地域研究

キーワード：地域研究 ビルマ系日本人 アイデンティティ 家族のつながり 無国籍

### 1. 研究開始当初の背景

ビルマ(現ミャンマー連邦共和国)は2011年3月に「民政移管」したが、日本に定住するビルマ出身者(定住ビルマ人)の多くは諸事情により帰国していない。これらの定住ビルマ人について、定住過程や今後どのようなアイデンティティを確立していくのかについて、先行研究では明らかにされていない。国境を超えた移住者の増加はすでに止められない動きであり、行政や教育機関をはじめとするあらゆるセクターにおいて、移住者の定住や統合のあり方とは無関係でいられない。日本社会を構成する定住ビルマ人のアイデンティティのあり方は、多様化する日本社会の現状および将来的な動きを予測しうる重要な課題であるが、これまで手がつけられていないことから、本研究課題に着手した。

### 2. 研究の目的

2010年度科研事業(基盤C)『在日ビルマ人ネットワーク形成をめぐる複合的研究:歴史的背景と日韓の実態比較(代表者:根本敬)』の研究成果を引き継ぎ、日本社会における「ビルマ系日本人」誕生の可能性およびその意義を明らかにすることを目的としている。ビルマにおける属性の違いにも留意しながら、在日ビルマ人のアイデンティティのあり方と家族のつながりを考察した。具体的には日本における定住ビルマ人コミュニティについて、1世の来日前のエスニシティ、来日後の在留資格、難民認定制度の利用、ビルマ大使館との関係、就学および就労状況を把握したうえで、1世と2世との関係、ビルマ国内外の家族および親族との関係維持のあり方を把握し、その特徴を分析した。

### 3. 研究の方法

まずは、一次史料および二次資料を用いて、特に少数民族および外国(中国、インド、英国等)に繋がりを持つ人びとのビルマ居住経験を考察し、ビルマ社会における多様なエスニシティを確認する作業を行った。日本だけでなく、英国、オーストラリア、マレーシアで在外ビルマ人を対象とした聞き取り調査および参与観察を実施し、それを基に、日本定住ビルマ人とビルマ国内と外国で暮らす家族とのつながり、1世と2世とのつながりなどから、当事者のアイデンティティが形成されていくメカニズムを解き明かし、定住ビルマ人のアイデンティティのあり方を類型化した。同時に、ビルマ国内でも聞き取り調査および参与観察を実施し、日本の事例をより客観的に捉えられるようにした。

### 4. 研究成果

本研究課題では、日本に定住する在日外国人を「多民族系外国人」と捉える視点を重要視し(『マルチ・エスニック・ジャパニーズ(明石書店2016)』)研究課題を遂行した結果、「ビルマ系日本人」誕生の萌芽が考察された。

まず『在日ビルマ人ネットワーク(2012年度根本科研)』研究で明らかになった定住ビルマ人のエスニシティを超えた連帯が継続しながら進化している点、さらには定住ビルマ人による日本社会への積極的な歩み寄りを確認した。マジョリティとマイノリティの観点から日本定住過程を分析した結果、来日前から「ビルマ人(バマー)」意識を有していた層だけではなく、来日前の「民族」「中国系ビルマ人」「ムスリム系ビルマ人」といったマイノリティ意識を有していた層においても定住後の新たな「在日ビルマ人」意識への変容を経験しており、これらのマイノリティ・グループを含む幅広い層

が「ビルマ系日本人」の対象になりうる点を考察した。ただし、ビルマよりも日本への帰属意識が強い定住ビルマ人もいる一方で、ビルマ国籍やパスポートに愛着を感じる人がいることも明らかになり、そのアイデンティティのあり方を考察した結果、「同化志向」、「共生志向」、「民族志向」、「個人志向」の四つの志向を明らかにした。しかしながら、在英ビルマ人の多くが自分はビルマ系英国人であり、英国社会の一員であると捉えているのに対し、在日ビルマ人への聞き取り調査および参与観察では、社会の一員となるのは困難であると捉えているケースが少なくなかったこともあり、「ビルマ系日本人」が誕生していると断定するには至らず、その萌芽を見出したとする結論となった。なお、本研究課題の総括として2018年度中に上智大学アジア文化研究所から成果刊行物（共著）を出版することが決まっている。

5. 主な発表論文等  
(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

〔雑誌論文〕(計3件)

1. 梶村美紀、日本定住ビルマ人のアイデンティティ形成に関する一考察、東アジア研究 68、査読有、2018、1-14
2. 陳天璽、脱国家的アクターの可能性 人の移動と国家の“せめぎ合い”を超えるには、アジアの中の日本 新たな試練にどう立ち向かうか 15、2018、1-22
3. 根本敬、ロヒンギャ問題とは何か?、盤谷日本人商工会議所所報 669、2017、45-50

〔学会発表〕(計4件)

1. 梶村美紀、属性と経験から考察する日本定住ビルマ人のアイデンティティのあり方、ビルマ研究会、2017
2. 陳天璽、華僑華人「再移民」與日本、世界海外華人研究学会(国際学会)、2017
3. 陳天璽、Trans-Border and Interdisciplinary Collaboration on Statelessness in Japan and Thailand Association for Asian Studies(国際学

会)、2017、Toronto  
4. 根本敬、ビルマ統治法下(1937-48)のインド人移民制限をめぐる植民地政府の対応 ナショナリズムとのせめぎあいの中で、ビルマ研究会(全国大会)、2016、京都大学東南アジア研究所(稲盛財団記念館)

〔図書〕(計4件)

1. 梶村美紀、風響社、ビルマ系日本人誕生とそのエスニシティ、2018、236
2. 陳天璽、ナカニシヤ出版、国際社会学入門、2017、192
3. 梶村美紀、明石書店、マルチ・エスニック・ジャパニーズー 系日本人の変革力、2016、247
4. 陳天璽、明石書店、マルチ・エスニック・ジャパニーズー 系日本人の変革力、2016、247

〔産業財産権〕

出願状況(計0件)

名称：  
発明者：  
権利者：  
種類：  
番号：  
出願年月日：  
国内外の別：

取得状況(計0件)

名称：  
発明者：  
権利者：  
種類：  
番号：  
取得年月日：  
国内外の別：

〔その他〕  
ホームページ等

6. 研究組織  
(1)研究代表者  
梶村 美紀(KAJIMURA, Miki)  
大阪経済法科大学・国際学部・准教授  
研究者番号：00534421

(2)研究分担者

陳 天璽 (CHEN, Tienshi)  
早稲田大学・国際学術院・教授  
研究者番号：40370142

(3) 連携研究者  
根本 敬 (NEMOTO, Kei)  
上智大学総合グローバル学部・教授  
研究者番号：90228289

(4) 研究協力者  
( )